

**CASBEE 広島 2016年版**  
 明治安田生命広島ビル

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q1 建築物の環境品質</b>									<b>4.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.39		-		<b>3.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.9</b>	0.15		-		<b>3.9</b>
1.1 室内騒音レベル		天井隠蔽型のエアコンを採用し、NC45以下を確保		<b>4.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>3.8</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		Dr-45以上の遮音間仕切を主要間仕切に使用		5.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		
1.3 吸音		事務室の床: タイルカーペット、天井: ロックウール吸音板の使用		<b>4.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.6</b>	0.35		-		<b>3.6</b>
2.1 室温制御				<b>4.2</b>	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能		窓: SC=2.0程度、U=3.0程度		5.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性		冷暖フリーエアコンにて細かなゾーニングで冷暖選択が可能		5.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25		-		<b>3.0</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30		-		
1 昼光率				1.0	0.60		-		
2 方位別開口							-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 昼光制御		庇・ブラインドによるグレア制御		4.0	1.00		-		
3.3 照度		オフィスエリアは750lxに設定		<b>4.0</b>	0.15		-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.3</b>	0.25		-		<b>4.3</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		5.0	1.00		-		
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30		-		
1 換気量		30m <sup>3</sup> /h/人以上の換気量を確保		4.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		中央監視設備にてCO <sub>2</sub> 濃度を監視可能		5.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>					0.30		-		<b>4.3</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.5</b>	0.40		-		<b>4.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>4.0</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペースを9㎡以上確保		4.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応		OAコンセント容量50VA/㎡以上確保		5.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		事務室天井高さ: 2.8m		4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース、自動販売機置場の計画		5.0	0.33		-		
3 内装計画		インテリアパースによる事前検討等		5.0	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>5.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		内外装に防汚性の高い仕上を採用、ガラスの清掃性に配慮したバルコニーの設置		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		清掃用具室・管理倉庫の設置、洗い場の設置等		5.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>4.1</b>	0.30		-		<b>4.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.8</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法25%増の耐震性		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>4.2</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		30年以上		5.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		20年以上		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトにガルバリウムダクトを採用		5.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管に塩ビライニング鋼管、排水管に硬質ポリ塩化ビニル管を採		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>4.8</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備		個別分散システムで、全体停止せず、重要度による使い分けを計画		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水型機器、緊急排水貯留槽の設置、水槽の二槽設置		5.0	0.20		-		
3 電気設備		商用電源の二方向引込(本線・予備線受電) 受変電設備、非常用発電機を浸水ライン以上に設置。重要電源の		5.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAランクで計画		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		異なる配線(光・メタル)を引き込む計画。MDF室を浸水ライン以上に		5.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.4</b>	0.30	-	-	<b>4.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			事務室階高:4.05m以上	5.0	0.60	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比:0.3以下	4.0	0.40	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			事務所床の積載荷重:4500N/㎡以上	<b>5.0</b>	0.30	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.8</b>	0.40	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	
2 給排水管の更新性			適切なメンテナンススペースを確保し、構造部材を傷めずに更新可	4.0	0.20	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	
5 設備機器の更新性			搬入ルートの確保	5.0	0.20	-	
6 バックアップスペースの確保			バックアップスペースを確保	4.0	0.20	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.31	-	<b>4.5</b>
1 生物環境の保全と創出			外構の緑化、緑地等の維持管理に必要な設備の設置等	4.0	0.30	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			景観法に基づく届出等に係る事前協議制度に関する取扱要綱の美観基準を満たす等	5.0	0.40	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.5	0.30	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			ピロティ空間の計画等	5.0	0.50	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			ピロティ空間・庇の計画や一部緑化した屋上空間の計画等	4.0	0.50	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	<b>3.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	<b>4.1</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			手で自然換気が可能な計画(自然換気有効ランプ採用)	4.0	0.13	-	4.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm]: 0.70	4.0	0.63	-	4.0
4 効率的運用				4.5	0.25	-	4.5
集合住宅以外の評価				4.5	1.00	-	
4.1 モニタリング			中央監視設備にて主要な用途のエネルギー監視が可能	4.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制			運用時の定期的な設備性能検証が可能	5.0	0.50	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	<b>4.2</b>
1 水資源保護				3.8	0.20	-	3.8
1.1 節水			節水型機器を採用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.7	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無			雨水利用システムの採用	4.0	0.70	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減				4.7	0.60	-	4.7
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.11	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			既存の地下躯体を再利用	5.0	0.22	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			高炉セメント	5.0	0.22	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			木材再生複合 ポリ塩化ビニル管、プラスチックデッキ材	5.0	0.22	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			OAフロアの採用等	5.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.20	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.70	-	
1 消火剤			窒素ガス消火の採用	4.0	0.33	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	
3 冷媒				3.0	0.33	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	<b>3.4</b>
1 地球温暖化への配慮			高効率システム、自然換気等により省CO2を実現	4.0	0.33	-	4.0
2 地域環境への配慮				3.2	0.33	-	3.2
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			適切な量の駐車・駐輪台数の確保	5.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			ゴミ庫・分別スペースの確保	5.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	
1 騒音				3.0	0.33	-	
2 振動				3.0	0.33	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	